

3 研究のまとめ

(1) 研究の成果

実践の考察を通して、友達との関わりの中で、友達の言動を認め、よりよい仲間との関係や日常の学校生活を築こうとする児童の姿を見取ることができました。そこで、次の2点を研究の成果とします。

- 学校行事で育てたい児童の姿を明らかにした上で、道徳的価値を意識した学校行事の学習過程の作成について考案し、授業実践を通して、その妥当性を明らかにすることができました。
- 学習過程において、振り返りの場や機会を充実させるための方法として、「I あい活動」を取り入れ、その活動のよさを明らかにすることができました。

(2) 研究の課題

平成30年度から道徳科が全面実施となります。この道徳科と関連を図って、特別活動の実践を行っていくことで、ますます、それぞれの教科、領域のねらいに近付けるものと考えます。そこで、本研究で実践した学校行事「健康安全・体育的行事」、「遠足、集団宿泊的行事」だけでなく、「儀式的行事」、「文化的行事」についてもどのような学習過程の工夫が有効か探っていきたいと思えます。また、各教科等の学習とともに、教科横断的な視点で学習を成り立たせていく「カリキュラム・マネジメント」の視点から、特別活動と道徳科の関連を中心に据えながら、他教科とのつながりや外部資源の活用など学校全体として必要な教育内容を組織的に配列する学習過程についての研究を深めたいと思えます。

(3) 終わりに

研究を進めるにあたって、研究協力員はもちろん、学級と関わりのある先生方に協力していただきながら、研究を進めることができました。「カリキュラム・マネジメント」の視点を持ち教科等間を関連させる上では、教師が育てたい児童の姿のイメージを共有し、チームになって取り組んでいくことが必要になると強く感じました。

また、佐賀大学教育学部中村尚志准教授に多くのアドバイスをいただきました。中村尚志准教授に、アドバイスの内容を中心に、コラムを書いていただきました。[「道徳教育と特別活動～“仲良し関係”から“高め合う関係”に～」](#)です。是非、お読みください。

本研究に御協力いただきました皆様へ深く感謝申し上げます。



クリックすれば開きます